

心あるところに宝あり

山口県

佐古さこ

利南としなみ

20数年前、たまたま本屋で手にした『日々これ掃除』（学習研究社）が、鍵山掃除道との出会いであった。

そのころ、学校現場の掃除の不徹底さに悩んでいた私に、この本は大きな転機をもたらした。すなわち、十年間一人の協力者も得られずに、それでも黙々と掃除を続けられた鍵山相談役の実践から、「自らは動かさず生徒を動かすことばかり考えていた自分の非」に気づいたのである。

以来、他人を頼ることなく早朝から汚れた場所の清掃やごみ

拾いに汗を流した。ときに一人で動くことのむなしさを思わないうではなかった。そうした時に、「相談役は一人で十年間頑張りた」という事実と、相談役に教えられた「箸よく盤水を回す」の言葉に支えられた。

その後、荒れていた学校で破壊された箇所の修繕やごみ拾いなどを通して、環境を整えることが如何に子どもたちの心を穏やかにするかを実感した。

また問題を起こした生徒と一緒にする便器みがきを通して、「人に役立つ」体験が子どもたちを大きく変えることを知った。親から、「初めて家のトイレ掃除をしてくれました」と喜びと感謝の手紙が寄せられたりした。

そうした体験もあって、定年

退職後の2004年ころ、地元で「岩国掃除に学ぶ会」を立ち上げ、以来20年近く細々と活動を続けている。この間、存続の危機に何度か見舞われたが、その都度自分一身の利害よりも、他者に役立つことを優先して快く駆けつけてくれる心優しい仲間たちに救われた。また、同じような心を持つ全国の掃除仲間との交流も大きな喜びであった。

それらの人々の柔らかな笑顔は相談役のそれと同根であり、「無私」の人々が持つ共通点である。清掃活動を通して私の得た最大の収穫物（宝）は、この仲間であるといえよう。相談役の教えである「心あるところに宝あり」とは、正にこのことかと思う。

(740-0035山口県岩国市海土路町二丁目86-12)

トイレ掃除、 実施か中止か？

広島県 佐々木 一幸



2005年9月、私は呉市内小学校のPTA会長でした。高校の先輩から、「掃除に学ぶ会」の心磨きのため学校のトイレを貸してほしいと依頼を受けました。

学校のトイレがきれいになるならと私は快諾し、学校も歓迎の様子でした。ところが、PTAでト

イレ掃除の案内をしたところ、学校の態度が一変したのです。

折りしも呉市は、現役市長と小村和年氏の一騎打ちによる市長選の真っ最中でした。その小村氏の講演会でお招きしたのが鍵山相談役です。

相談役の希望でトイレ掃除開催となったのですが、現役市長側から学校へクレームが入り、学校の協力なしの開催となりました。ネット上では、PTA会長が学校で選挙運動をしているとバッシングされました。

「トイレを貸して欲しいと頼まれ、依頼しただけなのに」と恨む気持ちもあり、中止も考えましたが、受けた限りはやろうと覚悟を決めました。

開会式に先生方は不参加、お掃

除は側溝掃除のみで、選挙の関係者は学校に入れませんでした。200名を超える方々にご参加いただきました。

ピリピリした雰囲気の中で始まった掃除でしたが、次第に和やかになり、閉会式には先生方も参加され、予定にはなかった校長先生のご挨拶や記念品贈呈まで行われました。これが「掃除の持つ不思議な力」でしょうか。

今思うのは、突然の「やるか！ やらないか！」の選択は、神さまからの試験だったと思います。なお、小村氏は激戦の末初当選しました。

最後に鍵山相談役をはじめ、ご指導を賜りました皆さまへ厚く御礼申し上げます。

(737-0131)広島県呉市広中町4-29)

掃除道三十周年を記念して

神奈川県

三須

清光



私は2001年4月、イエローハットで鍵山秀三郎相談役ご指導のもと、日本を美しくする会事務局のお手伝いをする事になりました。掃除経験もなく、何もわからずに不安でした。

資料をもとに、県別に80か所

以上の掃除に学ぶ会の一覧表を作成しました。次に、塚越康男様ほかの本部役員と相談して、会の趣旨やあゆみ、運営方法などを紹介する統一パンフレット(A4判4頁)を作成し、全国の会に配布しました。

その後、各地の会に出かけ、掃除実習体験とともに、各代表世話人と交流を図ったことなどが、大変なつかしく思い出されます。事務局は約5年務め、後任の新上政広氏に引き継ぎました。

鍵山相談役からお聞きした、今も印象に残っている言葉を列記します。

イエローハットマインド朝会するとき、全員で「凡事徹底・小さなことを大切に・もつと感動・毎日が楽しい」を唱和しました。

謙虚な人になるトイレ掃除を続けると「おれがおれでなく、お先にどうぞ」という謙虚を知る。実行してきて感謝しています。

「その人の言っていることと行っていることが大きく違う人は信用できない」本物の見分け方を学び、信用の大切さを実感しています。

米国の神学者、ラインホルド・ニーバーの言葉「神よ、変えられないものを受け入れる冷静さと変えられるものを変える勇気を与え給え」。鍵山相談役が講演でよく紹介されていました。なかなか実行は難しいことです。

「日本を美しくする会」三十周年、ニーバーの言葉「変えてはいけないものと変えなければならぬもの」を再確認し、ますますの発展をお祈り申し上げます。

お掃除で変わりました。 お掃除は愛おしい

茨城県

岡村

悟



保険を扱う事務所を経営しています。ずっと積極性を持ちたい、自分を変えたいと思っていました。

「お掃除をすると人生も仕事も良くなりますよ」と言われ、1999年7月茨城県龍ヶ崎市の学校で行われた「掃除に学ぶ

会」に参加しました。34歳のときです。

同年11月18日、古河市で開催された「凡事徹底塾」に参加しました。鍵山先生から「お掃除は人生が良くなりますよ、幸せになりますよ」とお聞きしました。

が、それでもなお、「そんなに変わるのだろうか」と疑問を抱いていました。栃木県日光、東京の築地市場など各地の「掃除に学ぶ会」にも参加しましたが、まだ半信半疑でした。

そこで「何が良いのか、わかるまでやってみよう」と思い立ち、家のトイレ、玄関、テラス掃除、家の周りのゴミ拾い、履き物を揃えることを始めました。

数か月経ち、数年経つうちに、「この汚れはどうすれば落ちるの

か、もっと効率よくしたい」と工夫するようになりました。また、見逃した汚れにも気づくようになり、お掃除の範囲が広がっていききました。

お掃除を始めて23年、空き時間を使ったお掃除や整理整頓に楽しさを感じています。最近では妻がお掃除に熱心になってきて、これも喜ばしいことです。

お掃除に取り組むと心にゆとりができて、物事に丁寧に接することができ、日々の生活や仕事も工夫するようになり、単純なこと小さなことを大切に確実にこなっていくと思っています。

これからも小さなことを大切に、心を持ち続け、お掃除を続けていきます。

(306,0212茨城県古河市久能746,26)

翻って足下のゴミを拾う

滋賀県

日下

英治

「天を仰いで己の未熟さを知り、翻って足下のゴミを拾う」

30歳のころ、勤めていた会社の社内報に掲載された「新人社員期待と不安」特別号でこの言葉と出合いました。それ以来、転勤するたびに、週末に住まいの近くのゴミ拾いをしています。

大阪勤務時の1997年、上野起立さん、山路卓司さん、濱浦紀代輝さんらとの出会い、「掃除に学ぶ会」とのご縁をいただきました。市内の小学校での例会に初めて参加した折り、大便器を担当いたしました。

サンドメッシュで何回こすつても、喫水線にうっすらと水垢が残り、なかなか取れません。巡回中の鍵山相談役に「水垢がなかなか取れないんですけど、こんなもんでいいでしょうか」とお尋ねすると、相談役はニコニコ笑みながら「何回ぐらい磨きましたか」と。「50回ぐらい磨きました」と小生…。

相談役はさらに笑みながら「あと300回ぐらいはやってみてください」と言われました。サンドメッシュで更に磨き続けると、あのうっすらと残っていた水垢は、100回もしないうちにきれいに消えていました。

このことから、何事も時間をかけて、心を込めて、丁寧に磨き続けることの大切さを学びました。

特に難しい仕事や、手間暇のかかる仕事はすべからく時間をかけ、丁寧に取り組むようになりました。すると意外や意外、思いがけない改善のヒントが得られ、大きくブレイクスルーした体験もありました。

近隣道路のゴミ拾いも、週1回3、4時間続けています。短歌の推敲や詩吟の稽古をしながら、楽しくやっています。往復するとタバコの吸い殻などを見落としていることもあり、ものの見方や観点が自己中心であることの反省の場にもなっています。

手間暇かけ、心を込めて取り組むことが創意工夫の源泉であることに気づき、掃除道にさらに邁進してまいります

一人の掃除より みんなでする掃除

山口県

なかにし
中西

ひでゆき
秀幸



トイレ掃除を日々するようになったのは、あるセミナーで「10年続けたら本物の人間になれる」と聞いて、ならば本物になってやろうじゃないかと思ったからです。人に喜んでもらおうとか、世の中を良くしたいという理由からではありませんでした。

そのうち公共の場や学校の便器を素手で磨いておられる方々の存在を知りました。けれど、私は掃除は一人で目立たずにするものだと思っていたので、良いことをしていると感じていたので、良いような活動を、否定的にとらえていました。

1997年、第2回山口掃除に学ぶ会に初めて参加しました。それでも否定的な思いはぬぐえませんでした。

その思いが変わるきっかけは、岩国市立錦中学校のトイレ掃除におけるリーダー初体験でした。掃除のやり方も進め方も我流で、稚拙なリーダーです。円滑な掃除とはならず、10人余りのチームはバラバラになり、パニックのまま終了しました。それが悔し

くて、その後毎月各地の掃除の会に出かけました。

リーダーシップを磨きたい、人も道具も時間も活かしきり、便器だけでなくトイレ全体を綺麗にする、トイレの空気を変えたい…と。そのような掃除を続けていたら、ともに掃除をした方々が喜んでくださることも大切だと気づきました。

トイレの空気が変わり、参加者が喜ばれる、その両方を創り出したい。そんな気づき、思いが生まれるのは、みんなで掃除したからこそのことです。

今、掃除を通して心の荒みをなくし、世の中を良くしたいと、心が外の世界、家庭や地域に向いているのを感じております。

味わいと深みを学んだ イエローハット研修

高知県

西村^{にしむら}

紀之^{のりゆき}



イエローハットでの1年間の研修は私の原点です。2004年4月1日早朝、研修の命を受けた私は、目黒本社に向かいました。偶然、駐車場でお会いしたのが鍵山相談役です。

その眼力と物腰の低さに衝撃

を受け、「大変な所にきた」と甘えた気持ちが一気に吹き飛びました。

相談役から直接手ほどきを受け「掃除道」を学びました。相談役の「気概」に引き込まれ、掃除道具や手順・方法すべてに意味があることを教わり、「後片付けは前準備」に共感しました。そして、「信念を持って工夫しつづつ前へ進むこと」を学びました。

さらに、毎朝の清掃や新宿掃除にも積極参加し、自身の心が浄化されただけでなく、社員の皆さまとも親しくなりました。

研修を終えて勤務校に戻り、中高一貫教育を立ち上げて間もない手探りの中、掃除を導入することにしました。「高知掃除に学ぶ会」にご協力いただき、トイ

レ掃除、学校周辺の掃除をし、白鳥宏明様には講演をお願いしました。掃除によって団結心が強くなり光が見えたと思えました。周りから抵抗はありましたが、やってよかったと思います。

15年経った今も、当時の先生方や生徒との交流が続いています。廃校が決まったことは残念ですが、あの体験が生徒たちの心に留まり、人生の糧になることを願っています。

定年退職後は、相談役の教えを同僚や高校生にも広げるため、「致知、PHPの読書会」を立ち上げ、四国巡礼など学びを続けています。相談役の教えを伝え、「住みよい街・國創り」を高知県から発信してまいります。

(780 8061 高知県高知市朝倉甲122-15)

年商100億円の社長から 「トイレ掃除してますか？」

栃木県 阿部 真一



1988年ころ、市場規模が倍になるからと父を口説いて、自社物件のデザイン事務所を13名で開設しました。しかしバブルが弾けて不良債権をつかみ、役員会で責められました。「会社を辞める！」父から頭を冷やせと諭

され、東京の中小企業大学校で一年間研修を受けました。

神奈川県のお米屋さんを訪問したときのこと。名刺の裏に「はきものをそろえる」の詩があり、開口一番「トイレ掃除してますか？」と聞かれました。25店舗・年商100億円の会社社長でした。私には、この言葉の意味はまったく理解できませんでした。

会社に戻り、半年たつてもこの言葉が頭から離れません。ふと読んだ鍵山様の本に、便器の掃除前後の写真がありました。そこで勇氣を出して、トイレに向かってみました。タワシで水垢をこすつても落ちず、爪でコツコツ磨くとポロポロ落ち始めました。

ここで初めて、今まで誰かがやってくれていたのだと氣付きま

した。3時間掃除をしながら、涙が止まりませんでした。やっと見えてきました。私は嫌なこと、問題点から逃げていたのです。トイレ掃除の極意は、人の嫌がることを自ら進んでやること、問題に近付いて素手で問題を取り除くことだと体感しました。37歳の春、人生の分岐点でした。

1997年秋、植木政行さん、鈴木健夫さんと3人で、「栃木掃除に学ぶ会」を立ち上げました。以来、トイレ掃除を学校などで約200回、掃き掃除を宇都宮駅西口で約300回行ってきました。後継者が育ち、40代のメンバーが活動を仕切っています。

掃除に学んだことを、後輩や子どもたちに伝えて参ります。